



わたし、アナタ、min-na

No.9

そのすがたがうれしい

相談室編

2022年 5月 9日 市立札幌開成中等教育学校便り
〒065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1
TEL 011-788-6987(代表) FAX 011-781-5629
HP <http://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/>

ゴールデンウィークが終わり、今日からまた通常の学校生活が始まりました。毎年ゴールデンウィーク明けの保健室は、体調不良の人達が次々と来室します。中には連休中に昼夜逆転してしまい、生活リズムの乱れから具合が悪くなってしまう人もいます。みなさんはどうでしょうか。昼夜逆転とまではいなくても生活リズムが乱れてしまった人は、まずは早寝から始めてみましょう。

今月のコラムは、主幹教諭の阿部紫乃先生に書いていただきました。



「インクルーシブな教育」を目指して

主幹教諭・学びの支援コーディネーター 阿部 紫乃

新年度が始まり、ほっと息つく暇もなく4月が過ぎ去っていき、気がつくと桜が咲き、ようやく札幌にも遅い春が訪れました。

この一月の間、何をしていたのかというと、私は「インクルーシブな教育」について思いを巡らせていました。これはIBの理念の中にある言葉です。SDGsの実現のためによく使われている「ダイバーシティ&インクルージョン(diversity & inclusion)」という言葉も、IBの公式ガイド『MYP：原則から実践へ』（日本語版35ページ・英語版27ページ）の中で示されています。

いったい「ダイバーシティ&インクルージョン」とはどのようなことなのでしょう。米国の多様性提唱者のヴェルナ・マイヤーズ氏の言葉を借りると、ダイバーシティは、パーティーに招かれて、そのパーティーに様々なバックグラウンドを持つ人々が「存在」することであり、インクルージョンは、そのパーティーで人々がダンスに誘い、誘われ「行動・参加」することだそうです。

このことをIBの教育に置き換えると、IBの使命に明記されている「人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあろうと認めることができる」ことにつながります。

日本は、長い間、エクスクルーション exclusion（排除）の考え方からインテグレーション integration（統合）・セグレゲーション segregation（分離）の考え方に移行し、目に見えない壁をなかなか取り払えない歴史がありました。そういう考えから、壁のないインクルージョン inclusion（包括）の世の中にしていくことは一筋縄ではいきません。

しかし、本校は大人も子どももそれぞれに違いがあることを認め合い、互いにかかわりながら生きている姿が見られます。こうやって身近な場所からインクルージョンが広がり、心に垣根のない世の中になっていくことを願ってやみません。

【5月のスクールカウンセラー・相談支援パートナー 相談日】

スクールカウンセラー	滝川 秀子さん	5/10(火)、5/17(火)、5/24(火)、5/31(火)
	太田 滋春さん	5/11(水)、5/18(水)、5/25(水)
相談支援パートナー	山吹はるえさん	5/10(火)、5/13(金)、5/17(火) 5/20(金)、5/24(火)、5/27(金)
	栗田 正樹さん	5/11(水)、5/18(水)、5/25(水)
相談支援パートナー 学びのサポーター	富長 佑来さん	5/2(月)、5/9(月)、5/12(木)、5/16(月) 5/19(木)、5/23(月)、5/26(木)、5/30(月)



【保護者のみなさまへ】

スクールカウンセラーのカウンセリング予約はいつでも受け付けております。お気軽に担任又は保健室までご連絡ください。

